

国語 第3学年 修飾語を使って書こう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の10月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

修飾する言葉がどの言葉にかかるかを確認、伝えたい様子に合わせて文を書き換える。詳しい語を増やすこと自体を目的にしない。単元の終わりに残すのは、基本の文、伝えたい様子、修飾語を加えた文、係り先の矢印。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)カ	カ 主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。
〔第3学年及び第4学年〕B書くこと(1)エ	エ 間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして，文や文章を整えること。

単元の目標

修飾する語と修飾される語の関係を理解できる。相手や目的に合う表現かを読み返し、修飾語の位置や使い方を直せる。言葉の働きを確認、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①修飾する語と修飾される語の関係を理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ）	①「書くこと」において、相手や目的に合う表現かを読み返し、修飾語の位置や使い方を直している。（B(1)エ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全2時間（知・技②）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○基本の文で分かることを確かめる。知らせたい様子を選ぶ。	学習状況を見て支援する。
	2 （本時）	○修飾語の係り先を比べる。自分の文を目的に合わせて直す。	知①・思①（発言・学習記録）

本時の案

本時の目標：相手や目的に合う表現かを読み返し、修飾語の位置や使い方を直せる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「どの言葉を詳しくすると、知らせたい様子が伝わりますか」 【めあて】修飾する言葉がどの言葉にかかるかを確認、伝えたい様子に合わせて文を書き換える。 〈予想される児童の反応〉 ・走った速さを知らせたいから、走るを詳しくする。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「どの言葉を詳しくすると、知らせたい様子が伝わりますか」 独自例「犬が走る」に「白い」「ゆっくり」を加え、どの言葉を詳しくしたか矢印で結ぶ。書き換え前後を読んで相手が想像した違いを確認める。 自分の語や文、話し方を試し、相手が受け取った内容と比べる。直す箇所を自分で選び、理由とともに記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・走った速さを知らせたいから、走るを詳しくする。 ・色を知らせたい時は物の名前に言葉を付けたい。 ・付ける場所で伝わるが変わる。	独自例「犬が走る」に「白い」「ゆっくり」を加え、どの言葉を詳しくしたか矢印で結ぶ。書き換え前後を読んで相手が想像した違いを確認める。 想定するつまづき：修飾語を足しすぎて中心が読めない、どの語にかかるか分からない位置に置く。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 相手や目的に合う表現かを読み返し、修飾語の位置や使い方を直している。（発言と学習記録） ◎知① 修飾する語と修飾される語の関係を理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ）（使った言葉・音読や表記の確認）
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・付ける場所で伝わるが変わる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確認める。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に教材名とめあて、その左に問い「どの言葉を詳しくすると、知らせたい様子が伝わりますか」。中央は児童が使った語や文の例を並べ、確かめる箇所に印を付ける。その左に直す前と後の表現を並べ、変えた理由を線に対応させる。左端に、今日確かめた言葉の使い方を児童の言葉でまとめる。縦書きで右から

左に学習の順をたどる。

つまずきやすい所と手当て

つまずきとして、修飾語を足しすぎて中心が読めない、どの語にかかるか分からない位置に置く。この場合は、独自例「犬が走る」に「白い」「ゆっくり」を加え、どの言葉を詳しくしたか矢印で結ぶ。書き換え前後を読んで相手が想像した違いを確かめる。おおむね満足できる状況は、相手や目的に合う表現かを読み返し、修飾語の位置や使い方を直しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

基本の文、伝えたい様子、修飾語を加えた文、係り先の矢印。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（3年）「3年下巻」13行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/7ff6b471-db8d-470a-968a-a9899624022a/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

